

INDEX

ことば徒然 エアコンの修理と
言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 エアコンの修理と・・・

2学期半ばに、学習室1のエアコンが壊れました。
リモコンでオンにいれても、しばらくすると消えてしまいます。
業者の人が修理に来てくれました。
ひとつずつ部品を変えて、動くか？どうかを確認して、部品を取りに店にもどり、また
来られていました。
発音の誤りへの指導と似ています。
ひとつの方法を試してみても、どれだけ改善したか確認します。
だめなら、またちがう方法で試してみます。
エアコン本体を取り替えるのなら、きっとこんなに時間はかからないでしょう。
部品が店になくて、取り寄せるのにも時間がかかっているのでしょう。
子音と母音の発音で日本語はできています。
ある子音全体が誤っていたら、改善も早いのでしょう。
しかし、ある子音と母音を組合せた数音だけが誤っているとき、結構改善するのに時間
がかかるケースがあります。
喩えがよくないかもしれませんが、よく似ています

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年の教科書に「天に のぼった おけや」の話が載っています。
挿絵を見ながら、文を作っていきます。

挿絵を指差しながら、「だれが?」「どこで?」「なにをしているの?」と順番に問います。

「おけやが」これは登場人物がわかれば、答えられます。

「くもの上で」これは前の場面でくものうえにのぼったおけやがかみなりに頼まれたことがわかっていれば出てきます。

「何をしているの?」の問いには、自分のことばで答える子と教科書のことばを使って答える子に分かれます。

「雨を ふらせています。」

「雨の たねを まいています。」

どちらを高く評価するか難しいところです。

しかし、教科書のことばに忠実であってほしいと願います。

自分のことばで答えることが必要になることがあります。

しかし、文章の読み取りをしています。

かみなりがたのむときも

「この水ぶくろから、あめの種をちくちくまくだけでええのや。・・・」と言われていきます。

挿し絵になっているところの表現では

「おけやもあめのたねをちくちくまく。」

と書かれています。

だから、後者を高く評価します。

漂泊鳥から

7号と9号のことば徒然の記事が同じでした。

お詫びいたします。

久しぶりにかぜをひきました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.9

ことばのもり 2003.2.19
=====

INDEX

ことば徒然 ことば数と発音
言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

ことば徒然 ことば数と発音

ことば数がふえると、発音も正しくなる。
発音が正しくなると、ことば数もふえる。

ことば数が少ないと、発音に誤りもでる。
発音に誤りがあると、ことば数も少ない。

今までに出会った、たくさんの子どもにあてはまります。
ことば数がふえるということは、弁別できるものがふえるということです。
ブーブーだったのが、「くるま」「バス」になります。
ワンワンだったのが、「いぬ」「ねこ」になります。
「くるま」や「バス」、「いぬ」や「ねこ」と言うことばを聞いて理解するだけでなく、
表現できるようになることです。
正しく発音できるようにもなるんでしょう。

しかし、ことば数の多い子の中にも発音が誤っている子がいます。
また、ことば数の少ない子の中にも発音が正しい子がいます。
このような子にも出会いました。
発達のスピードの違い、個人差と言われるんでしょうね。

言語性を伸ばす指導

絵カードを机に並べます。
「りんご、いちご、みかんをください。」と手を出します。
子どもの短期記憶を確かめます。
その後、「りんごといちごとみかんをまとめると何といひかな？」

と問い、上位概念を確かめます。
もう一度絵カードを戻し、
「くだものをください。」と手を出します。
子どもの理解を確実にしていきます

漂泊鳥から

やっとインフルエンザや風邪で指導を休む子も減ってきました。

今から、ラストスパートです。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.8

ことばのもり 2003.2.12
=====

INDEX

ことば徒然 表現すること

言語性を伸ばす指導 ひらがな文字を教えるわけ

ことば徒然 表現すること

人は何かを表現して生きています。

赤ちゃんは産まれるとき「オギャア」と元気な産声をあげます。

赤ちゃんがはじめて空気を吸い、肺を膨らませ、その空気を吐き出すときの声です。

赤ちゃんは誕生したことを産声で表現しています。

それから、子どもの表現力に問題があったり、受け止める大人の理解力に問題があったりして、教室で出会うことになります。

しかし子どもは、自らの発達のスピードの中で、さまざまなことを表現してきています。

教室では、子どもと大人がやりとりできるように、子どもの表現力を育てることが、自

分の表現だと思っています。

言語性を伸ばす指導 ひらがな文字を教えるわけ

ひらがな文字を教えるわけ

ことばを覚えるのは、親と子どもが豊かな共感関係で結ばれていることが必要です。子どものことばの発達が遅れているのは、子どもの側か親の側かそれとも両方に何らかの原因があり、今まで共感関係を結べないでいたと考えられます。ひらがな文字全部を一度に覚えるのは難しいですが、くり返し教えることで、少しずつ覚えていけます。子ども自身ができたという自信がもてます。この経験は次の課題に取り組んでいく原動力になります。親にとっても、どう関わっていいのかわからなかった子どもに、ひらがな文字を教えることで、子どもへのかかわり方を学ぶことができます。

親が子どもにひらがな文字を教え、子どもが習得していくことで、親と子どもの1対1の関係、共感関係を結びやすいのではないかと考えるからです。

漂泊鳥から

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.7

ことばのもり 2003.2.5
=====

INDEX

ことば徒然 ことば数と発音

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

ことば徒然 ことば数と発音

ことば数がふえると、発音も正しくなる。
発音が正しくなると、ことば数もふえる。

ことば数が少ないと、発音に誤りもでる。
発音に誤りがあると、ことば数も少ない。

今までに出会った、たくさんの子どもにあてはまります。
ことば数がふえるということは、弁別できるものがふえるということです。
ブーブーだったのが、「くるま」「バス」になります。
ワンワンだったのが、「いぬ」「ねこ」になります。
「くるま」や「バス」、「いぬ」や「ねこ」と言うことばを聞いて理解するだけでなく、
表現できるようになることです。
正しく発音できるようにもなるんでしょう。

しかし、ことば数の多い子の中にも発音が誤っている子がいます。
また、ことば数の少ない子の中にも発音が正しい子がいます。
このような子にも出会いました。
発達のスピードの違い、個人差と言われるんでしょうね。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

はじめに、雪がふっている絵カードを見せて、
「天気はどうですか？」
と問います。
「天気は雪です。」
「雪がふっています。」
つづいて、ストーブにあたる絵カードを見せて、

「何をしていますか？」
と問います。
「ストーブをつけています。」
「ストーブにあたっています。」
二つの文をつなぐことばとして、「けれども」「それで」を提示し、
「どちらでつないだらいいかな？」と問います。

漂泊鳥から

寒い日が続いています。

雪道を久しぶりに歩きました。

学校への行き帰りの電車で、いつもなら見ない人が乗っていました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.6

ことばのもり 2003.1.29

=====
INDEX

ことば徒然 検査と責任

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 検査と責任

ことばには責任が伴います。

ことばと行動は同じでありたいと思います。

検査をすれば、知能指数という数字が出てきます。

出てきた数字は、責任をもって伝えるようにしています。

どうすることが、その伝えたことばに責任をもつことなのか？

その子の問題の原因は何か
その子の問題の何から関わればいいのか
その問題にどのように関わっていくのか
考え、具体的に助言することです。

そして少しでもその子の問題が軽減するように取り組むことです。

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年こくご上「おおきな かぶ」
さし絵を見ながら、文を作っていきます。
さし絵を指差しながら、「だれが?」「なにを?」「(だれを?)」「どうしているの?」と
順番に問います。
「おじいさんが かぶを ひばって」
と文を作ります。
逆に「なにを?」「(だれを?)」「だれが?」「どうしているの?」と問うてみます。
「かぶを おじいさんが ひばって」
と文を作ります。
助詞の使い方を誤ると、
「かぶが おじいさんを ひばって」
になってしまいます。
こういう子がいたら、
「なにを?」「だれが?」と問うときに、答えの絵を指差してあげれば良い
場面ごとにさし絵があります。
練習することができます。

指差しをしないで「なにを?」「だれが?」に答えられれば良いと思います。
たとえ、誤っていても、書いてみると助詞の誤りに気づく子がいます。
それも誤っているときは、正しく助詞を使った文をリピートさせ、終わります。

お知らせ その1

「舌と歯」を更新しました。

字のとおり、舌と歯について少しまとめてあります。

お知らせ その2

「検査結果から2」をまとめています。

もう少しお待ちください。

漂泊鳥から

早いもので、もう1月もおわりですね。

学校のそばにある神社の梅の木に、花が咲き始めています。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にもお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No. 5

ことばのもり 2003.1.22

=====
INDEX

ことば徒然 双方向の関係

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば徒然 双方向の関係

朝、登校すると、ことばの教室にあいさつにくる1年生の女の子がいます。

教室の移動で、遠回りになるのに、ことばの教室の前の廊下を歩いていく男の子がいます。

中休みになると、いつもたずねてくれる4年生の男の子がいます。

掃除の時間、委員会の仕事で燃えないごみを集めにくる6年生がいます。

あいさつや一言二言、ことばのやりとりをしています。

そうすることで、強いもの、弱いものの関係でなく、

教え、教えられる関係でもなく
大人と子どもの関係でもなく、
教師と児童の関係でもない、
双方向の関係が結べます。

言語性を伸ばす指導 絵カードを使って

ことば数が少なくても、たいていの子には好きなものがあります。
乗り物であったり、動物であったり、花であったり、人形であったり、アニメの主人公
であったり・・・。
それを使えば、ことば数を増やすことができるかもしれないと思い、ピカチュウがはや
っていたときは、カードを買いました。
そのカードを見ながら、話していると、子どものほうが詳しくて、いくらでもことばが
出てきます。

「この名前は？」と聞きはじめると、いろいろと話してくれます。
自分のほうが、うなづくしかできず、ことば数が少なくなります。
リピートしているのは、自分のほうでした。
教える立場と教わる立場が逆転しました。
これも楽しいものです。
またピカチュウのおかげで、ある子どもがカタカナを覚えていきました。
ひらがなに書き換えて、ひらがなを覚えていった子どももいます。
マンガの悪影響が言われますが、肝心なのはどのように使うかです。

漂泊鳥から

1月のスタートはうまくできましたか？

寒い日が続いています。

風邪を引く前に、体を休めましょう。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.4

ことばのもり 2003.1.15
=====

INDEX

ことば徒然 教室でできること
発音の誤りへの指導 恐るべし教科書

ことば徒然 教室でできること

改善がみられ指導を終了していきましたが、不安がなくなったわけではありません。
すこし環境が変われば、体調がわるければ、スムーズに話せるだろうか？
吃音が出て最後まで話すだろうか。
伝えようとするを途中であきらめてしまうことはないだろうか。
自分で楽に話せる方法を見つけることができるだろうか。
その時、だれか近くにいい相談相手はいるだろうか。

人によってはなんでもないと思えるようなことでも、自分にはどうしようもないくらい
失敗に思えることがあります。
失敗体験から、「不安」が目を覚まし、次のときにもその「不安」は「現実化」してしま
う。
失敗を繰り返してしまう。
ついには記憶に残っていく。
そうになると、いよいよ「不安」は「恐れ」となり、どうすることもできず、「恐れ」か
ら「逃避」しかできなくなってしまう。
「不安 現実化 恐れ - 現実化 - 逃避」といったマイナス思考の回路がはたらくと、吃音
があらわれ、進行していくことも予想できます。
そのときに「逃げなかった - よくやった - 自信 挑む」といったプラス思考の回路がは
たらいてくれることを願います。

発音の誤りへの指導 恐るべし教科書

1年の教科書のはじめは、「みんな なかよし」です。

「あ」「い」「う」「え」「お」「か」「し」「た」「な」「ま」「み」「よ」「ん」のひらがなからできています。

ひらがな文字のあ～わ行の10行のうち、「あ」「か」「た」「な」「ま」の5行のあ列の文字がでてきます。

この行の発音は、早い時期に獲得される音です。

この発音を獲得しているか、確認できます。

つづいて、母音のひらがなとその口形がでてきて、母音が語頭につくことば集めをしています。

そのことばには、入学前にやっと獲得されるラ行の音、サ行の音、チ音、ツ音がでてきます。

ここで、その発音を獲得しているか確認できます。

漂泊鳥から

13日の日に買い物に行って帰り道、黒い服を着た男の人が集まっていました。

何かあったのかと思いましたが、成人の日だったんですね。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.3

ことばのもり 2003.1.8
=====

INDEX

ことば徒然

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

ことば徒然 教室でできること

子どもの性格が吃音の進展に影響するといいます。

今まで指導してきたのは、性格的に内向型のタイプの吃音児が多いかなと思います。

どの子ども次のようなことができるようになったと思います。

「不安を受け入れることにより、不安を解消していくこと、少なくすることができた。

スムーズに話す方法を教え、スムーズに話せたという経験をつませることができた。

斉読をすることで、音読でみられた吃音の症状を軽減することができた。

否定的な思いに共感し、肯定的な思いに過大すぎるくらい評価することで、以前より明るくふるまうようになってきた。

母親も吃音のことを理解してきた。

そのことにより、吃音の症状は多少改善することができた。」

と。そして、指導している自分も、ことばの教室で何ができるか分かってきたように思います。

「限られた場面、限られた語音にあった吃音の症状は、多少改善していける。

ことばの教室の1対1の指導の場面でも成功体験を積むことはたやすい。

そして、きっと学級という30数名の前でも、なんとか成功体験を積むこともできるだろう。」と

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

国語の1年の教科書に「大きなかぶ」という話が載っています。

そのなかに、このような表現があります。

「うんとこしょ どっこいしょ。」に続いて、

「けれども かぶは ぬけません。」

「それでも かぶは ぬけません。」

「まだまだ かぶは ぬけません。」

「とうとう かぶは ぬけました。」

とあります。

「けれども」「それでも」「まだまだ」の後は、

「ぬけません」と続きます。

「とうとう」の後は、

「ぬけました」と続きます
このつながり方を間違えると「ことば違い」になります。

漂泊鳥から
あけましておめでとうございます。
みなさんにとって今年もいい年でありますように・・・。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。
<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.2

ことばのもり 2002.12.31
=====

INDEX

ことば徒然
発音の誤りへの指導

1、ことば徒然 指導を記録するとき

指導がうまくできなかったとき、こんな視点で振り返るようにしています。

? 適切な課題であったか?

課題が難しすぎると、やる気をなくします。

反対にやさしすぎると、いいかげんになります。

子どもの力に見合った難易度であることが大切です。

幼児への個別指導では、「もうすぐわかること」「もうすぐできそうなこと」を課題としてしています。

児童への個別指導では学習の補充に取り組みます。

教科書の難しい課題には、解き方のパターンを教えます。

そのパターンでいくつかの問いに答えていき、習得すること、記憶し定着することをねらいにしています。

？ 適切なモデルを提示したか？

その課題をやり遂げるためのモデルを提示することが必要です。

たとえば、新出漢字を視写できないときには、ノートに手本を赤で書いてなぞらせます。

マスの横に一画ずつ手本を書いて、写させます。

マスの横に書いていくのを見せて、写させます。

マスの外に書いて、それを手本にして写させます。

一マスに書けないときは、四マスを使って写させます。

？ 適切な評価をしたか？

できないことばかり指摘しても、子どもはやる気をなくしていきます。

できていることを評価し、定着をはかります。

できていないことについては「～すればできるよ。」と教え、取り組ませます。

？ 見通しを持たせたか？

何をどれだけすれば、おわりなのか？学習の前に示すようにしています。

「はじめに 発音の練習をします。つぎに本読みをします。そして算数をします。」

終わるときは

「はじめに発音の練習をしました。うまくかぜの音が出るようになったね。そこにウをつける練習をしてきてね。」

「つぎに本読みをしました。読むときもゆっくり読めるようになったね。本をもっていないなくても、何が書いてあったかわかるよ。」

「おわりに算数をしました。計算がはやくなったね。」など もう一度、評価しながら、はじめとおわりを意識させます。

これは自分が今までにしてきた失敗の中から出てきた視点です。

親御さんに家庭学習を勧めるときのお言にもなります。

3、発音の誤りへの指導 - 2

サ行の発音練習

？ ストローを使って

図はここにありません。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/hp/hatuonn/sagyounohatuonnrennsyuu.htm>

下唇にストローを立て、そのストローに「すー」と呼気を通します。
これが s 行音の子音の音です。
s 行音の子音は、前舌と歯裏のすき間を呼気が摩擦するときの音です。
摩擦した呼気は前方に出ず、下方に出て行きます。

その呼気がストロウをとおります。
この音を「かぜの音」と名づけて、そこに母音の「ウ」をつけます。
はじめは、「かぜの音」と「ウ」の間に間があっていいです。
少しずつ、この間をとり、一息で「かぜの音」に「ウ」をつなげていくように練習
します。

留意すること

乳歯が抜けていないか？
上下の歯のかみ合わせ 咬合 はどうか？

漂泊鳥から
今年一年はみなさんにとっていかがでしたか？
来年もいい年でありますように・・・。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

ことばだより

2002 . 12 . 25

INDEX

ことばだより創刊
ことば徒然 ことばは不便なものです。
発音の誤りへの指導 サ行の発音

1、ことば徒然 - 1 ことばは不便なものです。

カードですむことが増えてきました。

支払いや銀行のお金の引き出しはあたりまえのことです。

図書館の出入りから、在学証明までカードですむと聞きました

病院に行けば、カードで受け付けてもらえます。

最近になってやっとクレジットカードを使い始めました。

ただ、キャッシュカードも持っていますが、まだ使ったことはありません。

便利すぎて、いつでも引き出してしまいそうです。

第一、自分は暗証番号を覚えられません。

誕生日だったのか？電話番号だったのか？

やっぱり、用紙に書き込み、窓口で、「これお願いします。」と声をかけて、現金を手渡しされるほうが安心です。

カードは便利に思いますが、声をかける不便もいいと思います。

「これお願いします」と声をかけるのも、いいと思います。

もともと、ことばそのものが不便なものです。

発音の誤りへの指導 - 1

サ行の発音 1

[s]行音は 無声 歯茎 摩擦音です。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/hp/qa/qha8.htm>

- ・上下の歯を軽く閉じる。
- ・軟口蓋を上げる。
- ・舌先を上歯裏に軽くあてる。
- ・呼気を舌と歯で摩擦させる。

単音の発音練習

?舌を出し、上歯と下歯で軽くかみ、「すー」と息を出す。舌に息を吹き付けるように

?舌先を下の前歯の裏につけ、マッチ棒を2本のせ、しずかに上歯と下歯とではさみ「すー」と息を出す。

?「ざ」のささやき声から導く。